

第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会 参加報告

北海道釧路明輝高等学校 PTA 会長 井上 雅敬

千葉県千葉市「幕張メッセ」で開催された第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会に、8月25日（木）、26日（金）の2日間参加してまいりました。

大会主題「再発見！愛」～今こそ信じよう愛の絆～のもと、全国から1万名を越える参加で盛大に執り行われました。



1日目基調講演「高校生の自立を支援するPTA活動の在り方」

千葉敬愛短期大学学長 明 石 要 一 氏

標記のテーマのもと、ユーモアたっぷりの講演でした。

変化の激しい現代社会において、今学力体力の格差だけでなく、体験活動の格差が生まれ始めていることを前提に、PTAの役割として、子どもたちの自立をサポートすることの大切さや、規則正しい基本的な生活習慣の徹底、地域と学校の橋渡しの必要性について学びました。また、「褒めて、叱って育てる」運動の推進についても熱く語られていました。褒められたり叱られたりの経験に乏しい、大人化した現在の高校生に対して、今一度家庭教育の重要性についても語られていました。改めて高校生の自立支援に対して、家庭・地域・学校の連携についても考えさせられる内容で多くの学びを得ることができました。

1日目の午後は7つの分科会・特別分科会が開催され、7つのテーマに分かれて全国の先駆的な取り組みを学び、そしてこれからのPTA活動の在り方などについて研修してきました。

特別第2分科会「情報機器と学校教育」

一高校生のスマートフォン利用の状況と必要な対応について

基調講演 千葉大学教育学部教授・副学部長 藤 川 大 祐 氏

参加者 井上 雅敬 会長・西川 勤 教頭

近年、高校生のスマートフォン所持率が激増し、長時間利用、犯罪被害やネットいじめの深刻化等、高校生のネット利用に関わる問題が深刻化していることを切り口に、多様化する社会の中での利便性に着目し、規制の強化より具体的な状況を知ること、教育・啓発等、必要な対応について考察するという趣旨で、前半に基調講演、後半に6名のパネリストによるパネルディスカッションにより特別第2分科会は行われました。前半の講演では、H25年問題ということで、この年を境に急激な高校生のネット利用状況の変化が起きたとの報告がありました。特に、利用時間増加による生活の乱れ、Lineやアプリの影響によるネットいじめの急増・深刻化、チャット型サービスによる犯罪被害の急増が指摘されました。家庭でのルール作りの重要性についても語られていました。パネルディスカッションでは、学校だけでは対応しきれないH25年スマートフォン問題に対して、情報能力の育成（10年先に必要な力を身につけさせる）という観点から、制限・禁止では情報モラルは育たない等、教員・保護者・現役高校生のそれぞれの立場からの発表が大変参考になりました。また、Twitterを利用しての会場の参加者との双方向意見交換という斬新な手法がとられたところも印象に残りました。

2日目は女優の市原悦子さんの「私の選んだ女優の道」と題した記念講演でした。女優の道を選ぶまでのエピソードに加え、朗読も披露され、参加者は大いに魅了されました。

両日ともに、貴重な学びの場となりました。子どもたちの自立をPTAとしてどのように支えていくのかといったことを改めて考えるきっかけにもなりました。